

NPO法人かごしまホームレス生活者支えあう会 初年度（平成19年8月～平成20年3月）事業報告

第1. 総論

1. 総括

10年の時限立法である、国の「ホームレス自立支援法」の成立から5年目にあたる昨年5月、2005年からの2年に亘る任意団体「鹿児島野宿生活者支えあう会」と「地域生活者自立支援センター櫻島館」の活動を継承発展させるべく、私達は「NPO法人かごしまホームレス生活者支えあう会」を設立した。1年を経て、活動と組織の多くの面で、後述する様にNPO設立以前より格段に進展を見せた。

とはいえ私達の活動は、平面としては鹿児島市の中でも、まだその全体をカバーすることができるまでには至ってはいない。ホームレス生活者の行き倒れや自殺も、やはり終には防ぐまでには至らなかった。また、私たちの過去3年余りの活動の中で、延べ150人ほどがアパートに入ったはずであるが、鹿児島市の今年1月の調査では、昨年調査数とほとんど同じであった。まだその実態の本当のところは、私達にとっても、やはりほとんど見えていないのかもしれない。

市民との関係で言うならば、昨年10月に行ったNPO設立記念集会をはじめとして、地方都市の鹿児島市にあっても、「住民票がない、住居がない、仕事がない、何を優先すれば安定した生活が送れるのか分からない」という境遇と、それ以上の絡まり合った問題をも抱え、その解決の鳥羽口をも見出せず、「混乱の淵に向かう」か「生きる気力」さえ無くしてしまうか、といったホームレス生活者等の存在を明らかにした。

その一方で、そうしたホームレス生活者等の存在を「自己責任の結果、他人事」としてしまうことで、翻って自分自身もその「自己責任」を引き受け、形式上は「自分の意思」で、実は「強いられた長時間労働、過労死」をも含め「与えられた環境であって適応以外に出口はない」とする多くの市民の現状もある。とりわけ、ホームレス問題について「興味もないし、時間もない」と応えた労働組合さえあったことは、その象徴の様であった。ホームレス生活者等の存在とその背景について、まるで「社会など存在しない(サッチャー)」かのように、「誰にでも必要なセーフティネットの機能不全」といった社会的課題の深刻さの反映として想像する「ゆとり」も失っているのかもしれないし、あるいは、自然災害では力を合わせて救援に協力するはずなのに、やはりそこには差別と偏見が繰り返し再生産され、その目を曇らせているのかもしれない。

私達はNPO設立以降の活動の中で、鹿児島のホームレス生活者等の現状が見えてくるに従い、その個別の支援課題も見えてきて、この間、その随時の対応に追われてきた感があ

る。他方、先に述べた様なネガティブな市民への情宣の不足もあって、この見えてきた必要とされる支援課題に比して、我々のボランティア活動の現場に参加する市民が、十分に増えている訳でもない。言わば「パンドラの箱を開けてしまった(自立生活支援センター・もやい 稲場氏)」様に課題は山積みである。

しかし、一方、少しずつ確実に支援の輪の広がりを実感しているし、先に述べたネガティブな市民ばかりではなく「世の中捨てたものではない」という実感も頂いた。

また最近では、公的機関の紹介でオニギリ会に参加する当事者も増えてきたことは、私達の活動が社会的に無くてはならないものになりつつある証左でもある。

そして市民ボランティアの絶対的不足をいつも補って、野宿卒業組の仲間の参加があることは、私達の活動の質が「何がしかの思い」を共有した、地に付いたものになっているかの否かのリトマス試験紙であり、何よりの励みであった。

そして、居宅後や就労の支援も含め、多くの困難と躓きがあっても、私達が活動を続けて来れたのは、おにぎり会への参加から相談、アパート入居や就労の過程で、当事者の表情も人との関わりも、その孤立した時期とは全然違っていく事であった。それは、言葉やしぐさだけでも、その当事者との関係が切れ、支援が切れてしまうかもしれない危うい場でもある。が、たとえば新事務所の愛称の募集に、当事者から「絆」の言葉を使った応募が幾つか見られたことは、私達の辛うじて作り出している場が、現代の絶滅危惧種のように、「皆が育てたい得がたい場」になっているのかも知れないという稀有な経験をさせてもらっていることであった。

こうした現場のパンドラの箱から飛び出た課題を、それに対面した会員個人で背負い込むのではなく、「支えあう会」全体として会の定款の交通整理を頼りに、現場で抱えた事柄の社会的意味を再度捉え直し、そうすることで、こうした課題を共有し次の年度の事業に繋げていくこととしたい。

私達は、その設立総会で「会の目的」を次のように議決した。

「NPO 法人かごしまホームレス生活者支えあう会」定款

第5条 本法人は、鹿児島県において、ホームレス及びホームレスとなるおそれのある者(以下、「ホームレス生活者等」という。)の生活及び自立を支援し、人権を守り、自立したホームレス生活者等が再びホームレス生活者等となることを防ぐとともに、ホームレス生活者等であることによるあらゆる差別をなくすための事業を行い、もって誰もが暮らしやすい社会を形成し、社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

そして、

第6条 本法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- 一 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- 二 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- 三 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動

とし、その目的の実現のための事業として

第7条 本法人は、第5条の目的を達成するため、次の事業を行う。

一 特定非営利活動に係る事業

ホームレス生活者等を対象とする食料、衣類、日用品の提供及び住まいの確保を支援する事業

ホームレス生活者等を対象とする人権擁護事業

ホームレス生活者等を対象とする福祉、就職、法律相談事業

ホームレス生活者等の相互の交流事業

ホームレス生活者等及びホームレス生活者等の抱える社会的又は経済的問題を理解し、ホームレスに生活者等に対するあらゆる差別をなくすための啓発事業

ホームレス生活者等及びホームレス生活者等の抱える社会的又は経済的問題に関する調査及び研究並びにこれらに基づく提言の公表

二 その他の事業

物品の販売事業

② 出版事業

会員を対象とする研修事業

とした。この定款に沿って、今年度の事業を振り返ってみたい。

ホームレス生活者等を対象とする食料、衣類、日用品の提供及び住まいの確保を支援する事業 について

まず、「グリーンコープかごしま」をはじめとする各方面の団体・事業所・個人の皆様から心のこもった支援物資・資金の提供をいただいた。このお陰で鹿児島県のホームレス生活者等の方々に毎週火曜・木曜・日曜の定時に、オニギリ(毎回最少でもおひとり2個以上)・味噌汁(毎回、ときには手作り等も)・(以下週1回以上の)惣菜・果物・パン・お菓子等の提供活動を継続することができた。また、衣類・日用品についても、先の皆様からの支援物資に加え、市役所地域福祉課を中心とする職員ボランティアの皆様からのご提供をいただ

くなど、ホームレス生活者等の方々からの生活必需品の必要最小限とはいえ、その提供希望に沿った支援物資を迅速に提供することができた。

さらに、住まいの確保を支援する事業についても、従来からの「住宅サービス」さんとの連携に加え、NPO 法人「やどかりサポート鹿児島」の連帯保証人提供事業との提携や、また無理の無い条件での提供を申し出て下さる方々の御協力を頂き、従来からの生活保護での住まいの確保は勿論のこと、野宿状態からの就労にあたっての住まいの確保の面でも、不十分とはいえ支援活動の幅を広げることができた。

しかし、おにぎり会にいつも参加していた A さんの公園での行き倒れを、終に防ぐことはできなかったことは、痛恨の極みであり、緊急に会として「語りあう場」を持った。

また、谷山地区でのこうした支援活動は、会全体の力量からも手付かずのままであった。

ホームレス生活者等を対象とする人権擁護事業 について

これは、特にそれとして現在進行形の、某党支部への事案を含め、常に敏感に対応してきた。また、ホームレス生活者等の人権に関わる署名・連名にも積極的に参加した。そして、こうした組織の態度表明といったことに留まらず、とりわけ、鹿児島市の某病院での、命にも関わる人権が脅かされる事態には、会の主要メンバーの総力で対応した。この例に限らず、私達はホームレス生活者等の人権に関わる放置・ネグレクトに、それを知った時点で全力で対応してきた。

そして、鹿児島でもホームレス生活者等が、孤立したままの状態では放置されれば、いつでもまた、生活保護行政の水際作戦や裁量権の逸脱、就労指導等での耳を疑う様な暴言、また、ただでさえ熟睡もできない中での野宿者襲撃など、命さえ危ない無人権状態に晒される社会的存在としてあるということを知った。単なる意識上での人権の啓蒙では、私たちの社会に存在するもし仮に名付けるならば「評価メカニズムといったもの」によって、他者の尊重という価値が常に掘り崩され、人権は常に形骸化する危険につきまといまわるといえる。これに対し私達は、ホームレス自立支援法の有無に関わらず、今後も、他の人権諸団体と協力して、人権擁護事業を更に強化し進めていく必要を痛感している。

ホームレス生活者等を対象とする福祉、就職、法律相談事業 について

毎回のオニギリ会や夜回り等あらゆる機会に、顔なじみの方々や新たに出会ったホームレス生活者等に対し、個別の聞き取りから相談につなげ、その記録をつけると共に、個別のケースに対応する福祉・就労・法律の情報の提供に取り組んだ。また、それに留まらず、必要に応じて生活保護の申請に同行した。こうした活動によって、生活保護で住まいと生活の建て直しの端緒に就いた方は今年度でも 50 人余に上った。そして、居宅後も支援の必要なケースの方々からの様々な相談にも積極的に対応してきた。しかし、家賃や公共料金

の滞納による再度の野宿化や行方不明になるケースも少なからずあった。今後、そうしたケースの背景に多く見られる様々な依存症やその傾向への対応など、居宅後の支援の課題への取り組みを、更に強化する必要がある。

就労については、後述する「支えあう会 NPO 設立記念集会」を契機に、まず第一に日本労働者協同組合センター事業団鹿児島事業所との「非営利・協同」の連携が生まれた。

そして、「就労説明会」の開催や「支えあう会」「センター事業団鹿児島谷山事業所」「ワーカーズコープ」「当事者」の3者による月1回の「就労支援委員会」を発足させることができた。この委員会によって、ホームレス生活者等の就労に関わる諸問題に対処すべく、不十分な面は3者相互に補いながら、事業としての歩みをはじめた。その活動当初の就労のケースでは、3者各々のマイナス面が現れたものの、現在では、半就労・半福祉の形態も含め、5人の就労が既に実現している。この活動の中で、当事者をはじめ、相互の新たな成長と力を発見することができた。このことは、ともすると「競争と排除」の一方的評価のメカニズムに人々が晒され又囚われている社会の中であって、人は多面的評価の中で新たな成長と力の発現が可能であり、それを可能とする繋がりこそが必要なのだ、という思いを新たにもした。

また、就労の実現には到っていないものの、他にも就労について受け入れ検討可能な企業からの申し出を頂いたり、刑余者を支援する企業との交流が実現するなど、その可能性を広げることができている。

ホームレス生活者等の相互の交流事業 について

現在、取り立てて「仲間の会」といった形で組織されるには至っていないが、毎週3回のオニギリ会や月1回の調理・食事会が少なからず、その交流の役割を果たしてきたと言える。

ホームレス生活者等にとって、その「失われた関係性の回復」という課題は、エンパワメントにとって重要なステップとしてある。社会的排除に晒され、深刻な孤立感を抱えた日々を耐えてきたであろうホームレス生活者等にとって、「定期的な交流の場」があることは、単に顔合わせができたということに留まらず、小さいとはいえ、あるコミュニティへの「参加感、水平感」を、それと意図せず実現してきた様に思う。たとえばIさんは、今では話し好きの朗らかな人なのだが、「荒んでいた時があった」と運転免許証の写真を見せ、支えあう会と出会ってから「怒りがポカン・ポカンと消えていく」と言った。こうした「場」の存在が醸成してきた何がしかの文化であろう。もっと言うならば、社会的排除に対抗して相互に補完し包摂し合う協同性というものに接近できた様に思う。私達はIさんの次の就労を考えているが、御互いを多様な側面で見るとは、就労・仕事起しの面においても、その資格や経験の有無にのみにとらわれず、「他者への眼差し」に潜む価値観の変革を促さ

れた。これは、以前、有志で取り組んできた休耕地耕作や米作りの「場の意義」も再度思い起こされる経験となった。

ホームレス生活者等及びホームレス生活者等の抱える社会的又は経済的問題を理解し、ホームレスに生活者等に対するあらゆる差別をなくすための啓発事業

これについては、昨年 10 月 20 日に開催した当 NPO 設立記念集会在、グリーンコープかごしまの皆様や日本労働者協同組合連合会センター事業団鹿児島事業所の方、鹿児島市地域福祉課主幹といった方々の御参加を頂き、またマスコミの取材など盛況の下、ホームレス生活者等支援活動の全国的先達の方々の御参加で成功裏に実現できたことが、第一に挙げられます。これによって、この後の活動を更に充実させていくことに繋がった意義は大きいものがあった。

さらに、12 月 8 日の「生活保護基準切り下げ緊急抗議集会」の準備と開催にも当会は重要な仕事を果たすことができた。これは地方都市からの発信として全国的にも意義あるものだった。

なお、現在取り組んでいる(通称)空き缶条例対策委員会の活動も、当事者の積極的参加を得て、地方都市の都市雑業の歴史と実態を照らし出し、市民の生活の関係性を再考する意味でも意義あるものである。

また当会は発言の機会あるごとに、講師派遣やマスコミ取材にも積極的に取り組んできた。なお、市民に対する定期的な学習会の開催は実現に至らなかった。

ホームレス生活者等及びホームレス生活者等の抱える社会的又は経済的問題に関する調査及び研究並びにこれらに基づく提言の公表

ザビエル教会夜回り会と社会福祉士会ホームレスサポート委員会と共に、昨年 5 月から「2007 かごしまのホームレス生活者実態調査」の準備と実行に取り組むと共に、その報告書を公表した。鹿児島市が行った調査が、それまでの 3 年余りの活動から得ていた実感と乖離していたためだった。この私達の報告書が、今年度から鹿児島市が開始するに至った「ホームレス巡回相談事業」の実現にも少なからぬ役割を果たしたと言えるのではないかと。

また、現在進めている「空き缶条例対策委員会」では、廃資源物回収にたずさわっている当事者の方々へのアンケートを準備・実施し、この条例が及ぼす影響の深刻な実態をも明らかにした。

なお、加えて、⑤⑥に跨った活動として、とりわけ鹿児島国際大学の学生、教授の方々と当会の内外にわたって今後の事業の発展の基礎ともなる取り組みを進めてきた。また、全国ホームレス支援団体ネットワーク、九州ホームレス支援団体連合会やホームレス法的支援ネットワークの諸活動に積極的に参加した。

以上

(初年度事業報告別紙1)

■ ホームページのご紹介 & ご報告

当法人では、ホームページを逐次更新しております。

ホームページアドレスは、次のとおりです。

<http://www5.synapse.ne.jp/supporter/synapse-auto-page/>

当法人の最新情報は、ホームページでチェックをお願いします。

その他、広報紙「支えあう会ニュース」のバックナンバー、報道発表資料などを掲載しております。

■ 会員向けのメーリングリスト

会員向けのメーリングリストも用意しています。

今年度は、活動の活発化にともない、毎日5通程度のメールが配信されています。まだ未加入の方は、事務局までお問い合わせください。



 ご訪問の皆様へ
☞ご挨拶
☞活動報告
☞ご参加の呼びかけ
☞ご支援・ご寄付をしていただいた皆様へ
☞新規会員登録(工事中)
☞本会の基本情報
☞広報誌 (支えあう会ニュース)
☞日記とスケジュール
☞掲示版
 会員専用
☞会員用掲示版
☞会議録・名簿
 ダウンロード
☞利右衛門
 参考資料
☞参考資料
☞新しい働き方研究コーナー(工事中)
☞地域づくり研究コーナー(工事中)
☞リンク集
 ご連絡・お問合せ
☞支えあう会メール
 支えあう会HOME

888888
since 2005/2/27

[トップページ](#)

最終更新 08/03/26

緊急！！

○ おにぎり配りボランティアスタッフ大募集！！

私たちは、週3回、中央公園にて、おにぎり、お味噌汁や支援物資を配っています。

そこでは、たくさんのボランティアの方のご協力が欠かせません。

ぜひ、ボランティアスタッフにご登録ください。

詳しくは、[こちら](#)をご覧ください。

○ お米、衣類のカンパをお願いします。

毎週火曜、木曜、日曜のおにぎりくぼりに必要なお米のカンパを募集しています。

また、男性用の衣類(Tシャツ、作業ズボン、下着)も不足しています。

ぜひ、カンパしてください。私たちが責任をもって、必要とする方にお届けします。

カンパについて詳しくは、[こちら](#)をご覧ください。

○ 広報誌「NPO法人かごしまホームレス生活者支えあう会ニュース」

創刊号(平成19年11月13日)を発行しました。

詳しくは、[こちら](#)をご覧ください。

○ NPO法人かごしまホームレス生活者支えあう会設立記念企画

「あなたはホームレスを知っていますか」を開催しました。



(初年度事業報告別紙2)

ガレージセールのご報告

理事 小川美沙子

ガレージセールによる活動費稼ぎについてのご報告をさせていただきます。そもそものきっかけは、2007年の正月にネグロスバナナ売りのご依頼を受けたことでした。グリーンコープ生協から毎週、ホームレス生活者に提供していただくネグロスバナナやりんごを使ってお菓子を作り、ホームレスの方たちに食べていただいていたのではどうだろうか・・・という素朴な想いのスタートでした。さっそく、ケーキづくりの得意な仲間働きかけると快諾。保健所の許可を得た厨房で、国産小麦を使用したバナナケーキを焼いて販売することになり、併せてガレージセールに取り組むことになりました。

4月アースデイ、5月(試作)、6月キャンドルナイト、7月ユニセフバザー、8月ガレージセール、9月森のまつり、10月ガレージセール、11月(命の祭りで別立てで休)、12月キャンドルナイト、ガレージセールを開催し、8回で29万円の収益を上げることができました。引き続き2008年も1月～2月は毎週ガレージセールを開きました。

リサイクルを兼ねたガレージセール(ワンデーショップ)は、おもいのほか人手と時間がかかります。ちょっとした苦労話を伝えさせて下さい。まず、お客さん集めのための広報です。チラシ作成、印刷 or コピーして、その後の配布が、メンバー数人で2日間ほどかかります。多い時には3000枚ほどの配布。環境新聞号外とジョイントして配布したり、メールや電話でも知らせます。何せ、お知らせしなくては足を運んでいただけないので。

それから提供品の整理が日常のこととなります。多いのは有難いのですが、名前の記された提灯とか、毎回とても使用できないような物品も山ほど集まり、ガレージに車が入らない! 書庫はリサイクル品で一杯という状況になります。当日は、早朝からホームレス当事者、卒業生と一緒に準備を始めます。ガレージ、庭、道路にまで溢れんばかりの物品を種類別に並べていきます。早朝からスタッフの食事作りも始めます。バナナケーキは前日からメンバーが焼き始めて届けてくれます。あとは天気がよく、他の行事とバッティングしないことを祈りながら、お客さんを待ちます。ケーキ以外の売値は、最高300円なので、その量たるやご想像いただけたと思います。セール後の売れ残り品の整理も一苦労です。早くても深夜12時を過ぎます。数人で、次回セール用、廃棄分、ホームレス配布用と声をかけながら、ビニール袋や段ボールに分けていく作業で一日が終わるのです。

知人の親戚が亡くなったので家財をすべて! という提供をいただき、私も何度か下見に出かけ、軽トラで何往復もすることもあり、名前の書いてある新品の下着やタオルもそれなりに買って貰います。また、家の解体作業などの紹介にまで至ることもあります。お客さ

んは市外からも見えますが、斜め前に住むご高齢のおばあちゃんは、毎回どんぶりにドルを貯めて当日を待ってカンパして下さいます。お天気次第のことも多々あります。イベント用にバナナケーキを準備したのに雨で1週間後に延期になって困り果て、その事情を友人知人にメールして真夜中に予約完売したこともあります。翌日はどしゃぶりの中を、始良、霧島市にまで配達しましたが、一個ずつ売れていくたびに感謝の想いでした。

年代ものの大きなエレクトーンを提供があった時は、有難い反面これまた大変でした。軽トラでは間に合わず、近所に住む配送業の方にボランティアでお願いし、下見と合わせてロープ持参を指示しなかった私のミスもあり3回も足を運び、Tさんが買って下さって、お子さんの通う保育園に寄付されることになったのです。階段からの運び出しが無理で2Fのベランダから、ロープ、梯子を使って荷おろし作業。怪我人がでるのではと私はヒヤヒヤ。無事に保育園に運び込んだ時はさすがにホットしました。さっそくそのエレクトーンの伴奏で、園児たちが一足早いサンタさんが来た！と「あわてん坊のサンタクロース」の歌のプレゼントをしてくれ、ホームレス当事者の方たちとTさんも一緒に鈴でリズムをとり歌って、子どもたちの喜ぶ顔に疲れも吹っ飛ば、嬉しい思い出もできました。

買っていただいた浄財が、寝袋、カイロ、入浴券そして、お米代にもなることを知った参加者、お客さんが、間接的であれ、ホームレス生活者を支援できることを喜んで下さったことも大きな副産物的な収穫です。まだまだ友人知人が中心とはいえ、鹿児島市内外の方たちが提供品を持参して参加されたり買われたりする交流。その提供品もさまざま、衣類、タオル、食器など使用済みもあれば未使用のものもあり、なかには紙おむつ、ナプキン、エレクトーン、健康具、お節句の兜、電動式パチンコ、お盆の提灯、タンスと何でもありで、衣類は下着～タキシードまで、リサイクル、リユース価格で、5～3000円以下。というわけで、楽しみにして下さる常連さんができたことも嬉しいことです。

昨年末のガレージセールでは、白いタンスが運び込まれ、お隣の常連さんも当日を楽しみに待っていました。ところがある朝、そのタンスが消えていたのです！関係者一同、あの大きなタンスをね～！どうやってかかえて行ったのか？車だったのか？深夜だったのか？予約をされていた5人のお母さんは残念がるやら、驚くやら……。それにしてもあのタンス、今頃どこで使われているのだろうと、ちょっと不気味な感じでした。

集まってくる提供品を仕分ける日々、そんなことにメゲテル場合ではない！この活動の素晴らしいところは、提供した方、買った方、そして支援して貰うホームレスの人たち、みんなが幸せになることです。そして、不思議と新たなエネルギーが湧いてくることです。しかしながら現実的には、一回のガレージセールにスタッフが費やす日数、労力はかなりのものがあり、ホームレス当事者、卒業生、支援者なくしては出来ません。市民の善意による支援が続くことを願って、今後のことはただ今、検討中です。

(初年度事業報告別紙3)

「放置自転車の有効活用について」

私は支えあう会の日ごろからの活動に参加するなかで、行政や市政県政国政と建設的で開かれた関係を積極的に構築し維持することが、大切なことと考えています。

現状から考えると、支えあう会は既存の公共的なモノや事ともっと距離を詰めても良いのではないかと感じています。新しい公共を力強く担うためにもこの視点は必要なことではないでしょうか。

こうした思いを踏まえ、また自転車のためのまちづくりを進める一人として、昨年度道路管理課の駐輪対策係に対して「支えあう会」の目的や活動内容などを丁寧に説明し、活発な議論を重ねて当会を対象とした撤去自転車の譲与に取り組みました。

きっかけは建設局からの資料でした。そこには所有者に返還できなかった自転車の活用先に留学生と福祉施設等が明記されていたのですが、過去十年來の譲与台数があまりにも少なかったのです。

返還されなかった自転車が、リサイクル自転車フェアや公用自転車として有効活用をされてきた経過の認識はありましたが、これほどまでに実績が少ないとは思ってもよらないことでした。

毎週のおにぎり会で聞いた雑談を、市有財産の有効活用に結びつけることができよかったですと思います。自転車も喜んでいるのではないのでしょうか。

最初に当会のアプローチが不足ではないか、と書きましたが、役所のほうとしても、こうした新しい公共の担い手側からのアプローチに慣れていない状況があります。地理的な特性もあり、なにかとぬるいままでも通用している状況を散見しますが、詰めるところや押さえるべきこときっちりやっていきたいものです。

自転車にとどまらず、今後も対話を通していろいろな課題の解決に取り組みたいと思います。

のぐち英一郎

自転車は、支えあう会から必要とされる方に貸与される形になります。
必要な方は、事務局までご連絡ください。Tel&Fax:099-223-5454

(初年度事業報告別紙4)

平成19年度 料理会 活動報告書

19年度は第10回料理会から始まりましたが、一年を通じて、調理室の予約ができないとき以外は毎月最終日曜日に休むことなく中央公民館地下調理室において料理会を行いました。(総合計では今年度の6月をもって22回の開催となります。)

メニューは主にカレーや肉じゃがといった、グリーンコープ生協様からの寄付していただくジャガイモ、にんじん、玉ねぎを使った料理が多かったのですが、第18回からは参加者のリクエストに応じて、鶏飯、チキンソテー、ちらし寿司、豚の生姜焼きと言ったこれまでとは違うメニューを作るようになりました。

参加人数は、路上の方約5～8名、卒業生約15名前後、ボランティア約3～7名ぐらいの平均となり、毎食、合計25食～30食を提供してまいりました。

13:00に始めますが、会を重ねるごとに作業時間が短縮され、直近の第21回では、14:30には出来上がり、16:00には終了してしまうという結果を出すことができました。

第5回ぐらいまでは時間が足りなくてばたばたと食べたり片付けたりしていましたが回数を重ねるたびに皆さんの手際が良くなり、時間をオーバーすることもなく非常にスムーズに作業をするようになりました。

料理器具類の取り扱いや最終の清掃作業でも皆さんが慣れて来たため管理側が注意しなくても的確に行動してくださり、課題であった退室時の公民館からの約束も守れるようになりました。

肝心の料理の味も実力が上がり、各班ごとにそれぞれ好きな味付けで大変好評でした。

問題点としては、毎回スープ類の量を多く作ってしまうため残すことが多くせつかく頂いた食材を無駄にする事が続いております。各班ごとに5～6人前とお願いしているのですが、その倍を作ってしまうため今後の課題にしたいと思います。

全体的に毎回楽しく活動できていると感じております。初めてボランティアで参加される方も調理という作業と一緒にすることにより違和感なく参加者と会話ができているようです。活動の目的である路上を卒業された方々の自炊の訓練という趣旨にも、皆さんの上達振りを見てみると成功しているのではないかと思います。

今後はなるべく新しいメニューに挑戦したいと思っております。

芝田 二三子

(初年度事業報告別紙5)

平成19年10月20日 NPO 法人設立記念企画 「あなたはホームレスを知っていますか」報告

平成19年10月20日津法人の設立を記念し、「あなたはホームレスを知っていますか？」という企画名で、集会を行いました。

呼びかけ文を引用します。

「彼らは、必死で今日を、そして明日を生きようとしています。しかし、それでも彼らはホームレスにならざるを得なかった。なにが問題なのか？なにが原因なのか？自己責任？福祉の貧困？派遣労働者。ネットカフェ難民。貧困が広がりつつある現在、ホームレス問題は「特別」なものではなく、誰にも身近な問題となり、そして、ホームレス支援活動は、貧困に立ち向かう運動として大きな広がりを見せつつあります。迫り来る『貧困』に打ち克つために、私たちは、路上から出発します。」

このように、ホームレス問題に軸足をおきつつ、そこから見えてくる日本の貧困問題全体に焦点を広げ、議論するような集会を志しました。

まずは、基調講演として、『貧困襲来』～<貧困>は「自己責任」じゃない！～と題して、湯浅誠氏（NPO法人自立生活サポートセンターもやい事務局長）に講演をいただきました。

次に、元ホームレス生活者の方の報告をいただきました。

次に、鹿児島市地域福祉課職員の方から、鹿児島におけるホームレス支援施策の実施状況及び保護の実施の状況について報告がありました。

最後に、貧困に立ち向かう私たちの役割～ホームレス支援活動を通して見えてくる日本の貧困～と題して、パネルディスカッションを行いました。パネリストは、青木しげゆき氏（NPO法人神戸の冬を支える会事務局長）長野千代子氏（当会会員 精神保健福祉士）小久保哲郎氏（弁護士・生活保護対策全国会議事務局長）小川みさ子氏（当会会員 鹿児島市議会議員）のみなさんです。市民運動、福祉専門職、法律家、議員、それぞれの立場からそれぞれの役割を語り、みなが有機的に結びつくことの必要性が語られました。

来場者数は約160名、会員以外からの参加も多く、また隣県の支援団体からの参加者もあり、一般市民のみなさんへのホームレス問題に対する理解を深め、また様々な交流の芽を育む機会になったと思われれます。